

ファイアーエムブレム EXPO II 上演ドラマ
『ファイアーエムブレム 蒼炎の軌跡』 「雨宿りの兄妹」

登場人物…アイク、ミスト
人物紹介BGM…Victory is Near

(雨の音)

アイク ふう、酷い雨だ。いきなり降り出したな。

ミスト お兄ちゃん、ここで雨宿りするつもり？

アイク ああ、この木の下くらいしか、

雨を避けられる場所がなさそうだ。

ミスト 急いでほしいってお父さんから言われたよ。みんなも待ちくたびれてると思うし……。

アイク まあ俺たちが調達した食糧を待ってるだろうな。ポーレあたりが腹を鳴らしてそうだ。

ミスト わたしなら濡れても平気だよ。

アイク いや……雨が止むのを待とう。お前はまだ病み上がりだ。この間体調を崩してただろ？

ミスト もう治ってるし、大丈夫だって。

アイク ぶり返したらそれこそ笑えない。

これは通り雨だし、すぐに止むはずだ。

ミスト うーん、わかったよ。もうっ、過保護なんだから。

アイク 親父ほどじゃない。

ミスト ふふっ、そうかもね。

アイク この間お前が倒れた時も、平静を装いながらも、内心一番焦っていたのは親父だろうからな。

ミスト あの時は皆に心配かけちゃって悪かったなあ。

アイク

ティアマトがいてくれて助かった。
ああいう時はやはり頼りになるな。

ミスト

そうだね。戦ってる時は怖いくらいだけど、
ティアマトさんに付きっ切りで看病してもらえたおかげで、
早く治せたと思ってるよ。

わたしにとつて、やっぱりお母さんみたいなの……いや、
お姉ちゃんなんだなあって思ったよ。

アイク

はは、本人に言えばいい、きっと喜ぶはずだ。
くれぐれも、姉、の方でな。

ミスト

あはは、うん！

アイク

でもお前が世話になったのはティアマトだけじゃないんだぞ。
解熱によく効く薬草を探してきてくれたのは
オスカーたちなんだ。

ミスト

えっ、そうだったの？

アイク

ああ、オスカーによると、料理に使える香草でも
あるらしい……クリミアでは売っていない珍しい
薬草だからって、三人で探しに行ってくれたんだ。

ミスト

そうだったんだ……。

アイク

木の根元に見つけたのはいいものの、
手を伸ばしても届かないから、
ポーレが樹を斬って作った隙間から、
ヨファが這いずって入り込んで、
なんとか手に入れたって話だったな。

ミスト

あの日、ヨファが泥だらけだったのは、
そういう理由だったんだね。

理由を訊いても答えてくれなかったから……。

アイク

お前に余計な心労をかけたくなかったんだろう。

ミスト

薬を作ってくれたのはセネリオ？

アイク

ああ。

ミスト

そっか……じゃあ戻ったら、
改めてみんなにはお礼を言わなくちゃね。

アイク

そうしてやるといいさ。

ミスト

あつ。そういえばあの日、
なんだか天幕の周りが
騒がしくなった時があつたよね？

アイク

ああ、あれは親父が知り合いの医者
を呼びに行っている間、山賊が襲
ってきたんだ。

ミスト

ええっ！？　じゃあみんな戦つ
てたの？

アイク

ちょうどオスカーたちもい
なかつたからな。
ティアマトはお前の天幕に
いたし、その時の戦力は
ガトリーとシノン、そして
俺だけだった。

ミスト

たつた三人で！？

アイク

まあ何とかなつた。ガトリー
の守りは鉄壁だし、
シノンの実力はお前も知
つてのとおりだ。
まあ最後に親父が駆けつ
けてくれて、
助かつたのは……事実だ……。

ミスト

もしかして、その山賊つ
てお父さんのいないの
を見計らつて……？

アイク

かもしれない。親父ほどの
傭兵にもなると、
恨みは買いやすいつて
ことだな。

ミスト

わたし、知らなかつたよ……。
熱にうなされてた間に、
そんなにみんなが
大変な思いをしてた
なんて……。

アイク

別に気にすることじゃない。
いつものことだ。

ミスト

そ、それはそうかもしれ
ないけど……。

アイク

それにお前は俺たちの中
でもまだ若い。
上の奴らに迷惑かける
のは当たり前のこと
だ。
みんな踏んできた道
なんだ。

ミスト

お兄ちゃん……なんか
いつもよりも、
おしゃべりだね。

アイク お、おい。お前が色々聞いてきたから、俺は答えてるだけだ。

ミスト ふふっ、そっかあ。でもなんだか……小さな頃のこと、思い出しちゃった。

アイク ん？

ミスト ほら、わたしたちがまだ戦いなんてとてもできないくらい小さかった頃……わたしが同じように熱を出しちゃって……看病してくれる大人もその場にいなくて……お兄ちゃんがずっと看病してくれたじゃない。

アイク そうだったか……？ もう忘れた。

ミスト そっか。二人とも小さかったもんね。でもわたしは覚えてるよ。動けないくらい弱ってたわたしにまだ子供だったお兄ちゃんが一生懸命、何度も水を飲ませてくれたの。

アイク ……………。

ミスト ああ、でもそう考えると、わたしって昔からずっとお兄ちゃんにお世話になりっぱなしなんだなあ。

アイク だから気に病むことはないさ。俺だっけいつも親父には迷惑かけっぱなしだ。でもいつか……必ず追いついてみせる。

ミスト ふふっ、お父さんはお兄ちゃんの目標だもんね。

アイク ああ……ん？ 見ろ、ミスト。いつの間にか雨が上がってる。

ミスト あっ、本当だ。これならもう行けそうだね。

アイク ああ、みんな腹を空かせて待ってるぞ。さあ、急いで帰ろう。

ミスト うん！

- ・この台本は、イベント「ファイアーエムブレムEXPOⅡ」の当日に使用予定だった台本を、公開用に再構成したものとなります。
- ・台本内の表記は、ビデオゲーム上の表記と異なることがあります。
- ・無断転載、配布等の二次利用は禁止いたします。